

2024年度 自己点検・評価報告書

2025. 3. 25

(仮称)長崎日本語学院自己点検・評価委員会

日本語教育機関名	：長崎日本語学院
設置代表者	：南風崎MGLレヂダンス株式会社 代表取締役 本岡 吉彦
評価の方法	：本評価は年度当初、本校職員(9名)に以下の点検項目を配布し、年度末に4段階評価及び達成状況、課題、改善計画等を提出してもらい評価委員会で報告書を作成し、最終的に職員会議で承認を得る手順で行ったものである。

◇簡潔に記述

理念	グローバル社会を日本人とともに生きぬく力の養成
教育目標	グローバルコミュニケーション能力を身につけ、日本文化を世界に向けて発信することができる人材の育成

1. 学校運営		確認・評価
1.1	日本語教育機関の告示基準の要件に適合している。	3. 6
1.2	意思決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能している。	2. 8
1.3	業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的かつ組織的に行われている。	2. 8
1.4	入学希望者・在籍者及びその利害関係者(経費支弁者等)の理解できる言語で情報提供を行っている。	3. 8
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
運営組織や担当者の変更があり、業務の見直しや効率化が行われていない部分もあるが、職員会議や朝夕の会で職員意思の疎通を図り、適正な日本語学校を目指し全体として改善に努めている。特に、福岡出入国管理局の実地検査での指摘事項については、校内で改善策を周知し改善に向けて組織的な取組を行った。また、1.4については、本校ホームページで情報提供を行っている。		
2. 入学者の募集		
2.1	教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示している。これらは想定する入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	3. 7
2.2	海外の仲介業者等の行う募集活動が適切については契約書を締結し適切に行われていることを把握している。	3. 8
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
学校情報はホームページで最新のものを開示している。また海外の仲介業者については、契約締結後も学生から聞き取りをするなどしてその業務内容を把握し、適切でない場合は受け入れを停止している。		
3. 入学者選考		
3.1	入学者の選考に関し、学習能力・勉強意欲・経費支弁能力・日本語能力等について提出資料で確認する等、適切な方法により確認している。	3. 8
3.2	入学者の選考に当たっては、学校職員による面接等を実施し、上記3. 1にある内容について確認し選考を行っている。	3. 9
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
面接は必ず複数の職員で行うこととし、合否判定資料をもとに提出資料と併せて総合的かつ厳正に選考している。経費支弁能力についても、面接で確認し、提出資料でも確認している。		
4. 納付金		
4.1	入学検定料・入学金・授業料その他納付金の金額、納付期限等・方法、及び学費以外に入学後に必要な費用を募集要項等に明記している。	3. 9
4.2	関係諸法令に基づいた学費返還に関する規程を定め公開している。	3. 7
4.3	上記4. 1及び4. 2については入学志願者、在籍者及びその経費支弁者の理解できる言語で情報公開を行っている。	3. 4
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
授業料などの学費や諸経費に加え、本校は直営寮があるため、その諸経費は募集要項に明記するとともに、ホームページでも公表し周知している。学費返納についても同様である。		
5. 学生支援		
5.1	日本社会や日本のルールを理解し、適応するためのオリエンテーションや生活指導の取組を行っている。	3. 9
5.2	入国・在留関係事務担当者は、言語対応ができ経験豊富なスタッフを配置し適切な情報取得や学生支援を継続的に行っている。	3. 8
5.3	進路説明会や面談など進路指導を適切に行っている。	3. 8
5.4	感染症発生時の対応や重篤な疾病や傷害及び交通事故のあった場合の対応を定めている。	3. 6
5.6	資格外活動違反やビザの所持など入管法上の留意点について、学生への伝達指導を定期的に行っている。	3. 9

5.7	災害等に対する避難訓練を定期的実施している。	3.6
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
<p>日本社会のルールや入管法上の留意点については、入学時点で時間をかけてネパール人スタッフ等が指導を行い、その後も、長期休暇前及び月に1回のオリエンテーションを行い、理解・適応を促している。生活面については関係機関に指導を依頼し、中でも、本校生は全員が自転車を利用するため、近隣の自働車学校スタッフによる実演指導を実施するなど学校生活が安全安心なものになるよう生活指導を行うとともに、アルバイトについての指導、病気対応、カウンセリング等、学生支援にも力を注いでいる。</p> <p>卒業生に対する進路指導も、担任指導だけでなく、面接指導や進学担当者によるオリエンテーション、校内及び業者主催の外部での進学ガイダンスなど、オープンキャンパスなど参加しにくい、地理的なハンディを補うための取り組みを行っている。</p> <p>重篤な疾病、傷害、事故については迅速で適切な対応を心がけているが、感染症対応は本校の経営母体である会社の対応規則に因って対応を行っている。今年度はコロナ感染者は皆無であった。</p> <p>資格外活動についての指導は、上記の通り、生活オリエンテーションで定期的な指導に加え、アルバイト先への訪問等のなかで、情報交換を密に行い、不正行為の未然防止に努めている。</p> <p>防災避難訓練は地元消防署と協力し、地震対応指導も含めて実施した。本校では、大半が敷地内にある寮で生活を送っているため、その避難計画も策定され担当者による訓練も実施されている。</p>		
6. 法令遵守		
6.1	法令遵守に関する担当者を特定している。	3.2
6.2	法令上必要な施設・設備等を備えている。	3.7
6.3	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。	2.8
6.4	個人情報保護のための対策がとられている。	2.7
6.5	地方出入国在留管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	3.9
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
<p>法令遵守の責任者は校長が担っている。告示基準に適合する施設設備が整っている。コンプライアンスを高める取組については、告示基準に基づいて、校長を中心に職員へ指導は行っているが、専門家による研修を行う必要がある。来年度の研修計画に入りたい。</p> <p>個人情報の保護は、原則、職員の関係書類の持ち出しは行われていない。紙ベースの保管書類については厳重に保管を行っている。また、パソコンによるデータ保管についても、専門業者と確認を取りながら個人情報の保護に努めている。</p> <p>出入国管理局や無料職業紹介者としての労働局等への届出及び報告については、遺漏なく行っている。</p>		
7 教育活動		
7.1	理念・教育目標に合致したコース設定し、カリキュラムを体系的に編成している。	3.0
7.2	クラス編成は、学生の日本語能力を試験等で判定し、適切なクラス編成を行っている。	3.1
7.3	授業計画を作成し、授業記録を正確にとるなど、教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	3.2
7.4	教育目標に合致した教材が選定されている。	3.0
7.5	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を学生に的確に伝えるなど日本語力向上に努めている。	3.2
7.6	授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行ない、一方で職員研修などの実施により、教育の質の向上に努めている。	2.6
7.7	日本文化に触れる体験や、地域連携による住民との交流体験を実施するなど、学生の国際理解ができる機会を設けている。	3.9
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
<p>コース設定はレベルではCEFR(JFS)、授業内容はCan-doでのカリキュラムを設定しているが、体系的に学生の日本語力向上のための取り組みが積極的にされているとはいえないところがある。特に、7.6の項目については、学生に学習アンケートを実施しているが、職員研修が不十分であるため、来年度から計画的に研修を実施していくことにより教育の質の向上に努めたい。7.7については、従来とは異なる日本文化体験(空手・生け花・餅つきなど)、地域との交流では、保育園児と田植えなどの農業体験、小中学生とはスポーツや学生の出身国と日本との国際理解を深めるための交流、地域住民とは本校主催のお祭りへの招待や本校生が夏祭り出演するなど、様々な活動を通して国際理解ができる機会を教育活動の中に組み入れている。また、このことは本校の地域における日本語学校への認知度を高めることにも繋がっている。</p>		
8 教育成果		
8.1	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験(J.TEST)の結果を把握している。	3.8
8.2	卒業後の進路を把握している。	3.8
8.3	進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握している。	3.3
* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)		
<p>本校生は全員JLPTの試験を受験している。年2回実施されるため、受験に向けてグレード別クラス編成を行い指導を行っている。結果についても、全職員で把握し、次の試験に向けて結果を分析し、その後の指導に繋げているが、不十分なところもあり研修などを行い、指導方法の向上に繋げていきたい。卒業生の進路については、受験校を含め進学先の一覧を作成し全職員で把握し、次年度の進路指導の参考にしている。卒業後の状況把握については、進学先の学生募集等での来校時や会場ガイダンス等で確認するようにしているが、不十分なところもあり、長期休暇中などを利用して進学先学校訪問等々を実施し、卒業生の状況把握をすることで教育成果の確認を行い、それをもとに、さらなる教育の質の向上に繋げたい。</p>		

* 小項目の評価は以下のとおりとする。

4 求められる水準以上 3 達成 2 一部未達成 1 未達成